

(代表質問)

質問日	令和 7 年 12 月 4 日 (木)			質問方式	分割方式		
質問順位	2	会派名	市民クラブ	議席番号	25	氏名	岩田 邦泰
表題	質問内容						答弁者の職名
1 浜松市DX推進計画2.0の進捗について	本年度改訂され、新たに「浜松市DX推進計画2.0」となった本計画の概要とその全体の進捗について、市長の見解を伺う。						中野市長
2 本市のAI施策の状況について	<p>業務効率化などに向けたAI活用が叫ばれ、一般企業では様々な場面での活用を模索し、既に実装フェーズに入っていることも多いと認識している。現在、本市でも様々な場面で徐々にAIが活用されているものと推察するが、その状況につき、以下伺う。</p> <p>(1) 「浜松市DX推進計画2.0」に謳われている府内の各課におけるAI利用の推進について、推進計画2.0の発表から半年以上経過した現時点の評価はどのようなものか。</p> <p>(2) セキュリティ上、生成AIは府内専用版があると思うが、情報漏洩リスクのある外部の生成AIの利用はどのように阻止しているか。また日進月歩する生成AI技術への利用ガイドラインは逐一改定されていくべきものと考えるが、検討は行われているか。</p> <p>(3) 各所管部門は事業に合致した様々なAIを利用していると思うが、管理はどのようにしているか。部門・事業ごとのAIの利用状況は、見える化しておくべきと考えるがどうか。</p> <p>(4) 教育関係での活用を調べると、兵庫県三田市ではAIを活用した相談システム「MIRAIノート」を文部科学省の「不登校児童生徒等の早期発見・早期支援事業」として実証実験を行っていた。本市の学校教育へのAI活用の考えはあるか。</p>						飯尾デジタル・スマートシティ推進担当部長 〃
3 フェローの活用について	本市のDX施策に対し、大所高所からの助言・指導を頂く8人のフェローについて、その活動内容や活用状況などから、整理も検討する時期に来ていると思うを考えを伺う。						吉積学校教育部長 〃
4 新たなデジタル技術の活用について	<p>デジタル・スマートシティを標榜する本市であるが、先取の気概を持って、最新技術の活用をしているか考えるといさか心許ないと感じることから、以下伺う。</p> <p>(1) 低軌道衛星通信スターリングについて調べると、他の自治体では防災・災害対応目的での導入事例があった。 ア 他の自治体の事例のように、災害対応に低軌道衛星通信を活用する考えはないか。</p>						清水危機管理監

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表題	質問内容	答弁者の職名
	<p>イ 事業の取り掛かりから、かなりの時間を要している「光ファイバ未整備地域解消事業」については、光ファイバを敷設せずに、低軌道衛星通信を活用する考えはないか。</p> <p>ウ 林業でのLPWA通信には課題が多いとされたが、代わりに低軌道衛星通信を活用する考えはないか。</p> <p>エ 低軌道衛星通信の普及による産業分野への活用についてはどのように考えるか。</p> <p>(2) 多機能型照明塔の「スマートポール」に関する、日経グローカル誌の自治体アンケート回答に本市の名前はなかったが、記事からは様々な効果が期待できる。</p> <p>ア 防犯カメラとAIを組み合わせるなど、市民の生活安全観点で活用する考えはないか。</p> <p>イ 人流計測カメラで人流を計測し、データを中心市街地の活性化に活用する考えはないか。</p> <p>ウ 気象データを基に備え付けたスピーカーから警告や注意喚起を自動で行うことも可能に思うが、活用の考えはないか。</p> <p>(3) 上記の様に、DX機器の設置により、複数の部門にメリットが出そうな場合、発端になった部門ではなく、一緒に検討すべき部門間の調整等はDXの専門家たるデジタル・スマートシティ推進担当が音頭を取っていく認識で良いか。</p> <p>(4) 令和8年度の予算編成方針から始まった「財源配分方式」の考え方では上記のように複数の部門が関連する事業の初期投資に対し、単一部門が手を上げづらいのではないかと推察するが、各部門へ配分された予算を出し合えるような仕組みは考えられているか。</p> <p>(5) AIによる道路損傷検出システムは今年から車載カメラ10台全てを道路パトロール車から一般の公用車に載せ替えて全区で運用している。現状の効果と今後の取組はどうか。</p> <p>加えて、現在は人間がオペレーションしている「いっちゃん！」について、道路管理業務の効率化に向けたAI技術のさらなる活用可能性はどうか。</p>	<p>飯尾デジタル ・スマートシティ推進担当部長</p> <p>下位農林水産担当部長</p> <p>北嶋産業部長</p> <p>水谷市民部長</p> <p>北嶋産業部長</p> <p>清水危機管理監</p> <p>飯尾デジタル ・スマートシティ推進担当部長</p> <p>鈴木財務部長</p> <p>平井土木部長</p>
5 官民連携プラットフォームについて	<p>いわゆる「官民連携プラットフォーム」は成り立ちや性格の異なるものが各所管課に属し、たくさん存在している。官民連携の会議体や組織の全体像は見える化して管理すべきと考えるがどうか。</p> <p>また、見える化をした結果、大きく重複する部分がある場合には、部局横断的に一つにまとめるなど整理をしていく時期に来ているのではないか、考えを伺う。</p>	山名副市長

表題	質問内容	答弁者の職名
6 外国籍人材の産業での活用について	<p>本市は非常に多くの外国籍市民が集まる稀有な特色があり、この特色は本市の発展にさらに生かすべきものと考えている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 本年 10 月に実施した、ハイデラバード、ベンガルール、コインバトールの 3 都市訪問の成果はいかがか。</p> <p>(2) インド人材以外にも、既に本市の市民である 3 万人に及ぶ外国人も産業人材に活用すべきと考えるが、外国人学校などからは正社員就職が厳しいとも聞くが、活用策はいかがか。</p>	北嶋産業部長
7 三遠南信の枠組み活用について	<p>本年も三遠南信サミットでは、東三河地域に隣接するエリアに立地する静岡県立湖北高校佐久間分校、佐久間病院に期待が寄せられていた。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 佐久間分校の生徒獲得を三遠南信の地域課題として捉え、県境を越えて通学する学生への支援策などの生徒獲得に向けた施策を、三遠南信の枠組みの中で検討できないか。</p> <p>(2) 佐久間病院についても東三河地域からの患者の数が増えていることを鑑み、医師不足の問題など医療体制の課題対応を三遠南信の枠組みの中で検討できないか。</p>	工藤企画調整部長
8 浜松学の検討状況について	10 月 24 日に開催された「第 3 回浜松学のあり方検討委員会」を傍聴した。その中では「学問というより理念・指針」という当局説明に対して、一部の委員から異論も出ていた。私自身も具体的なイメージが沸かず、来年 3 月にまとめる内容に不安を感じたところだが、座長を務める副市長の認識を伺う。	山名副市長
9 避難所の災害対応型 L P ガスバルク供給システムの導入について	大型の L P ガスタンクを設置し、平時にはガスヒートポンプ空調などに利用しつつ、災害時には空調だけではなく、発電や直接燃料として利用する「災害対応型 L P ガスバルク供給システム」について、自治体の導入事例が増えていると聞くが、本市の検討状況を伺う。	清水危機管理監